

(2016.7.15)



義太夫協会会報
第103号

平成28年7月15日
一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17F
Tel. 03(3541)5471
Fax. 03(3546)2334
http://www.gidayu.or.jp

会長就任のご挨拶

原 道 生

このたび、図らずも、理事会の皆様方よりのご推挙に与り、伝統ある義太夫協会の会長を務めさせていただくこととなりました。

まことに身に余る光栄と恐縮かつ感謝いたしておりましたが、と同時に、一方では、本協会との御縁もまだ浅く、また、歴代の先生方とは違って、伝統芸能全般への理解も乏しく、とりわけ、邦楽界の諸事情への知識などにも疎い私のような者に、果たして、この重責が担い切れるものだろうかとの不安の念を、どうしても拭い去ることができません。

就任早々の段階で、このような弱音を吐くことは、我ながら、大変臆甲斐ないこととは存じますが、それが現在の偽らざる本心でございますので、どうぞ会員の皆様方には、そうした事情をお汲み取り下さり、よろしくご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

私が本協会のお手伝いをさせていただくようになりましたのは、平成二十年、前々会長の景山正隆先生より、義太夫教室入門コースの一科目を受け持つようにとのお話を頂戴したことが発端でありました。そして、それ以降九年目に当たる今日に至るまで、毎年新しく接する受講者の方々の、義太夫節という語り物芸の魅力に惹かれ、それと意欲的に取り組もうとされる熱心な姿勢に励まされつつ、及ばずながら、その方々のご希望になんとかお応えできるようにと努めて参ったつもりであります。

さらに、またそのことを機縁として、その時以来、それまではご縁の薄かった正会員の方々の演奏を味あわせていただく機会が多くなりました結果、女流の方々の素浄瑠璃や歌舞伎の竹本の生み出す表現力の豊かさ、奥深さに改めて気づかされ、長年、もっぱら文楽のみを主体として考えていた義太夫節を、もっと広い視野から捉え直し、楽しむことが可能をなつてきているような気もしています。

ともあれ、今後は、おおよそ、こうした素人なりのささやかな個人的体験に依拠することにより、本協会の本旨である義太夫節の保存育成、継承普及などの問題に対し、多少なりともお役に立つことができるよう微力を尽くして参りたいと存じておりますので、皆様方には温かいお力添えを賜りますよう重ねてお願いを申し上げます。

ところで、私が右のご指命をいただきましてその翌週、波多前会長のご逝去という、思いがけない悲報に接しなければなりません。私といたしましては、今後何かとご相談に乗っていただき、あの穏やかなご口調からのご指導を賜ることを強く望んでおりましたところゆえ、まことに心細く、残念に思われてなりません。今は、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。



はら みちお

昭和十一年、東京都生まれ。東京大学大学院中退。横浜市立大学助教授を経て、明治大学文学部教授。退職後、同大学名誉教授。現在、義太夫協会会長、義太夫教室入門コース「義太夫節の歴史」担当、清栄会理事。瑞宝中綬章、日本演劇学会河竹賞、角川源義賞（文学研究部門）受章。著書に『近松浄瑠璃の作劇法』（八木書店）、『近松門左衛門（新潮古典文学アルバム）』（新潮社）、『古典に見る日本人の生と死』（共著、笠間書院）、『近松浄瑠璃集（新日本古典文学大系）』（共著、岩波書店）など。

(2016.7.15)

通常総会開催

五月二十九日(日)、平成二八年度通常総会が東劇ビル五階、松竹株式会社映像本部会議室にて開催された。

平成二七年度事業報告・決算報告がいずれも承認された。

また平成二八年度事業計画・収支予算に関する報告が行われた。新たな試みとして、研修事業の現状(二ページ三段目参照)等が発表され、いずれも承認された。

今年役員改選の年に当たるので、木村亨選挙管理委員長のもと、選挙が行われた。新たな役員は左記の通り(役職別五十音順)。

代表理事

(会長) 原道生

理事

上田悦子(竹本駒之助)

小島美恵子(竹本土佐恵)

立花繭子(鶴澤津賀寿)

西野宗祐(竹本弥乃太夫)

矢島照代(竹本綾之助)

柳瀬信吾(竹本葵太夫)

監事

児玉信

矢内賢二

女流義太夫四月公演 お話「義太夫の愉しみ」

四月二十九日に開催された女流義太夫演奏会四月公演(於・紀尾井小ホール)は、義太夫協会相談役である竹内道敬氏のお話「義太夫の愉しみ」で始まる公演となりました。

四月公演は、「その一」として、義太夫節の創始期である竹本義太夫や近松門左衛門の時期をテーマとするお話に続き、『曾根崎心中』『天神森の段』と、『嬬山姥(こもちやまんば)』『廓嘶の段』の演奏というプログラムでした。今回は「義太夫の愉しみ 特別編」として十二月公演に竹内道敬氏による忠臣蔵を題材とするお話がございます。今後とも様々な企画を考え、より魅力的な演奏会にして参りますので、是非お誘い合わせのうえご来場ください。



鶴澤弥々と鶴澤翔也 新人奨励賞を受賞

女流の鶴澤弥々と竹本(歌舞伎義太夫)の鶴澤翔也が、本年度の当会新人奨励賞を受賞し、三月二十日のお江戸日本橋亭公演にて表彰式が執り行われました。

続く演奏会では、受賞記念として弥々が、妹背山の道行で三味線のシンを、先輩諸師の胸を借りて勤めました。義太夫教室を経て竹本弥乃太夫の門下となり、初舞台を踏んで九年。最初は楽器として太棹三味線に興味を持ち、次第に義太夫そのものの魅力に引き込まれて、プロを目指す様になったそうです。



翔也は、群馬出身。実家が地芝居に携わっており、将来手伝うつもりで大学進学で上京した折に、三味線を習い始めたのですが・・・。転機は、初めて生で観た歌舞伎座の舞台。余りの華やかさ、スケールの大きさに衝撃が走り、「すごい!ここで弾ける様になりたい。」と竹本入りを決意したそうです。帰りを待っていたご家族も、八年経った今では

(2016.7.15)

地元から熱い声援を送って下さるとの事。「一つ、一つの舞台を大切に勤めたい」という弥々と、「基礎をしつかり固める事を心掛けたい」という翔也―誠実に、そして真摯に芸に向き合う二人の応援を、これからも宜しくおねがいします。

(竹本佳之助)

義太夫教室

六八期から六九期へ

義太夫教室第六八期は実践コースの後期課程を終え、三月十二日(土) 深川江戸資料館小劇場にて卒業発表会が開催されました。

語りの演目は「新版歌祭文 野崎村の段」(竹本朝輝指導)と「仮名手本忠臣蔵 裏門の段」(竹本越孝指導)。三味線は「メリヤス組曲」(鶴澤津賀寿指導)。各回、違う衣裳を身につけての舞台に、参加者のテンションは上がりっぱなし、演奏後も和気藹々、写真撮影に興じる微笑ましい光景が見られました。また、先輩がたの演奏が花を添え、会場のあちこちで卒業生たちが旧交を温めている様子でした。

発表会の興奮冷めやらぬ十七日(木)にはめでたく修了式。その後もお稽古を続ける方、度々演奏会でお顔を拝見する方と様々です。皆さま末長く義太夫とお付き合ひ頂ければ幸いです。

四月二三日(土)の一日体験教室(講師は

越若・三寿々)を経て五月二六日(木)には第六九期入門コースが開講しました。実技講師は語りが土佐子・越若、三味線(入門コースでは手ほどき一回のみ)が三寿々。入門コースは講義と実技の二本立てなので、毎回様々な視点から義太夫についての知識が得られます。一時間目の講義では熱心にメモを取り、二時間目の実技では思い切り声を出し、とメリハリのある内容を受講者一同楽しまれている様子。教室は八月の一日体験教室を挟み、九月からの実践コースへと続きます。編入も可能ですので、興味のある方は是非義太夫協会事務局へお問い合わせください。



義太夫教室 OB の演奏

いよいよ始動、 新人養成特別研修制度

義太夫協会研修部

昨年度(平成二七年度)より、義太夫協会

の新たな事業として取り組み始めたプロの義太夫演奏者を育てるための「新人養成特別研修」は、約一年をかけて制度の詳細、研修内容を検討し、要項がまとまりました。併せて広く告知するためのリーフレットも完成しました。それに先立ち「邦楽ジャーナル」四月号の義太夫特集で、この新人養成特別研修のスタートが取り上げられました。

今回の特別研修では、原則二年間、諸経費以外の研修費用をいれだかず、全く邦楽経験のない方、他流の邦楽や舞台活動の経験を持つ方のどちらにも対応する方針で、邦楽ジャーナルをお読みになった方の経験者から、早速問い合わせがあり、五月下旬に面接を行いました。応募者第一号ということで、まずは六ヶ月間、語りと三味線のお稽古をはじめることとなりました。

将来長きにわたり、プロとして活動できる人材を養成することは非常に難しいことです。もちろん受講生にはプロになるために厳しい日々を覚悟していただくこととなります。受け入れる義太夫協会研修部、研修を担当する講師もしっかりと適性を判断して、有意義な研修を目指して参ります。

正会員の皆様には講師としてご尽力いただくことをお願いいたしますと共に、賛助会員、この会報をお読みの皆様にも、是非この制度をご理解いただき、広く人材募集にご協力いただけますようお願い申し上げます。



(2016.7.15)

K A A T竹本駒之助公演 第五弾が芸術祭大賞受賞

昨年十月三十一日、十一月一日両日に行われたK A A T竹本駒之助公演第五弾「鎌倉三代記」八ツ目切「三浦別の段」の演奏が、平成二七年度（第七十回）文化庁芸術祭賞の音楽部門で大賞を受賞した。
受賞理由としては、左記の事柄が挙げられた。

「竹本駒之助の公演は、三浦之助の帰郷から、時姫のクドキ、高綱物語までの「三浦別の段」を一人で語りきるといふ、義太夫史上、半世紀ぶりに近い大きな挑戦であった。多彩な声の表現力と明瞭な発音によって、三浦之助の母と時姫の心情、計略に長けた高綱の人物像を鮮やかに語り描き、鶴澤津賀寿の三味線と相まって、聴衆の心を物語の世界に力強く引き込んだ。素浄瑠璃の魅力を圧倒的な芸の力で披露した。」

今後のK A A T神奈川芸術劇場公演は、早くも第七弾。九月二二日(木・祝)、二三日(金)の両日ともに十五時から。演目は「摂州合邦辻」下の巻ノ切「合邦内の段」で、これまでと同様に大スタジオにて開催される。
チケットは現在好評発売中。お問い合わせは、チケットかながわ〇五七〇〇一五―四一五（十時〜十八時）まで。

「津賀寿の会」

を開催して

鶴澤 津賀寿

去る五月二七日、三越劇場で、はじめての自分の会をさせていただきました。おかげさまで、一週間前に札止めとなり、たくさんのお客様にお越しいただけたこと、感謝の念にたえません。



初舞台から三十年の記念の会にするつもりはなかったのですが、準備の都合上、たまたまその時期になり、三十周年のお祝いのお言葉をたくさんかけていただいたのも、思いがけない喜びでした。

ある方の会に客演した時に、こういう会のやり方は素敵だな、と思い、今回はその形を取り入れたので、制作、スタッフとも外部の方が多かったのですが、内輪の方々も率先して協力して下さり、一人ではなにもできない、と実感しました。

番組は、花組芝居とのリーディング、師匠駒之助との義太夫で、「源平布引滝」。リーデ



イングは全くの新しい試みなので賛否両論あると思いますが、発展の可能性を感じましたし、師匠は八十歳とは思えない元気さで、皆様、師匠の愛情を感じた、と：：ありがたい、幸せな一日でした。
(撮影・山之上雅信)

義太夫協会会長

原道生氏が瑞宝中綬章受章

平成二八年四月二九日付けをもって春の叙勲が発令され、当義太夫協会会長、原道生氏が瑞宝中綬章を受章されました。功労概要は、教育研究功労。

すみだトリフォニーホール

義太夫節関連公演

一月三十日、すみだトリフォニー小ホールで「のう、じよぎ、ろう！」が、そして三月



オーケストラによって上演されており、浄瑠璃は竹本駒之助、三味線および義太夫の詞章作成と節付けは鶴澤三寿々が担当した。演奏会評は「音楽の友」(音楽之友社)五月号に掲載されている。

二七日にはすみだトリフォニーホールで「オペラ×音楽様式『カルメン』」が上演された。前者は能、女流義太夫、浪曲という、日本の個性的な三種の「音楽つき語り芸」に焦点を当てたトリフォニーホール主催公演で、義太夫は竹本越孝、鶴澤寛也による『碁太平記白石噺』新吉原揚屋の段が演奏された。また、後者は演奏会形式によるオペラ『カルメン』公演で、小学校四年生から高校三年生までのトリフォニーホール・ジュニア・オーケストラの創立十周年記念公演。音楽部分は通常の管弦楽によるオペラ、台詞部分は義太夫、ソリストの所作には人形振りを取り入れる、というオペラ・コミックならではの演出による公演。指揮・音楽監督である松尾葉子氏の発想によるこの演出は二〇〇三年以来、様々な

松尾葉子氏より、公演へのコメントを戴いた。「義太夫とクラシックのオーケストラとのオペラ『カルメン』は、素晴らしい公演になりました。オリジナルはセリフの入ったオペラでしたので、義太夫の語りは大変マッチしたものになり、臨場感あふれる演奏ができました。このようなスタイルで公演を成功に導いてくださった義太夫のお二人に感謝の気持ちで一杯です。」

ホールによると、主催公演がクラシック音楽中心なため、義太夫が初めてという声が多く、「のう、じよぎ、ろう！」は来年三月一日に第二回開催を予定。また『カルメン』では練習中のジュニア・オケのメンバーで義太夫の真似が流行するなど、トリフォニーホールでの公演をきっかけに義太夫と出会った人の輪は確実に広がっている。(写真・三浦興二)

阿波路会

竹本友和嘉(徳島)

鶴澤友路御師匠のご近況は、御歳満百二歳を迎えられ、今も毎日、私達弟子にお稽古をつけて下さり、大変お元気に過ごされています。友路師一門の私達にとって何よりも有り難く、いつまでもお健やかにいらしていただきたいと切に願っています。

平成二六年に姉弟子の鶴澤友勇さんと素浄瑠璃の会『阿波路会』を結成させて頂きました。



た。阿波と淡路はお隣の県、昔から特に浄瑠璃は深い繋がりがあります。そこで二人の出身地、阿波・淡路を繋ぐ名前にしよう」と『阿波路会』と名付けました。

昨年初秋、その阿波路会に「邦楽版・新釈姥捨山」のお仕事の依

頼が入りました。現代語の文章からなる約八十分の作品。出来るだけ分かりやすく、義太夫の良さを入れ、朗読調義太夫節的な部分も入れて製作して欲しいとの難題です。悩みに悩んだ末、お受けする事になりました。友勇さんが作られた曲を語り作っていくという試行錯誤の作業の日々。時間が過ぎてゆく中で、時にはスマホで音のやりとりも、すべてが初めての経験でした。

そして今年一月本公演、邦楽チームの胡弓、太鼓、笛の方々の素晴らしい演奏と義太夫との正しく邦楽コラボ。そこに、木偶舎・淡路人形座の皆さんのご熱演で無事終演する事ができました。この公演を通して、邦楽の魅力や義太夫の奥深さを改めて勉強する機会を頂いた事に心より感謝しています。

創作浄瑠璃を子ども達に

野澤松也



私が創作浄瑠璃の活動を初めて、もう十三年目になりました。二〇〇四年の九月、月見の会をしたのがきっかけです。回りを竹藪で囲まれた料理屋でお食事付の浄瑠璃の会をさせて頂きました。二丁二枚で狸々の演奏をしました。その時お話の中で、後の月の話をしたところ、会が終わってから二、三日した時にお客様から、後の月の会はなさらないのですか？と電

話が有りました。予定はしてなかったのですが、十月に後の月の会をする事になり、今回は一人で弾き語りをしました。月に因んだ団子売、胡弓でムーンナイトセレナーデ、それから御

客様に俳句を書いて頂き、即興でそれを浄瑠璃にすると言う、大胆不敵な事をさせて頂きました。その時に創作浄瑠璃を作ったら面白いかも？と思いついたのです。そして初めに作ったのが、笠地蔵でした、曲調も本調子、二上がり、六下がり、と曲調に動きを付けて面白くしました。一ヶ月余りで作曲し十二月三十一日に神楽坂の料亭をお借りして、演奏させて頂きました。なんとこの日は夜から大雪になり、本当にお地蔵さまの足音が聞こえてきそうなしつらえになりました。

思わぬ天からの白い贈り物の演出もあり、皆さんにとっても喜んで頂き手応えを感じました。それから活動が始まったのです。

そして私は、これからの日本を背負って行く子ども達にも是非日本の伝統文化を分かりやすく伝えて行きたいと思ったのです。年が明けて、「泣いた赤鬼」の創作に取りかかりましたが、浜田広介さんの作品なので著作権があり、直ぐに発表出来ません。著作権をお持ちになつている、広介さんの娘さん・浜田留美さんを訪ね、演奏を聞いて頂き、発表を承諾して頂きました。その夏には、山形県高島市にある浜田広介記念館で初演奏させて頂きました。子ども達が八十人、大人が二十人くらい、百人以上集まりました。

驚いた事に子ども達は親ではなく、年上のお兄ちゃん達に連れられ子ども達だけで来てくれたのです。「きょうは来てくれて有り難う、お母さんと来たの？」と聞くと「違うよ、赤鬼のポスト



ーが張つてあったから友達と来たんだよ」と言われ「泣いた赤鬼の話は知ってたの？」「知ってるよ！広介さんのお話は皆知ってるよ」そこに住んでる子ども達は広介童話を皆知ってるのでびっくり喜んでました。昔話や童話には人としての道徳心が沢山描かれているので子ども達には沢山読んで欲しいですね。それから、江戸七不思議のお話も浄瑠璃にしています。「おいてげぼり・片葉葎、最近では送り拍子木・送り提灯・灯り無蕎麦屋・落葉無き権」などです。熊本の民話で閻魔の交代と言うお話も浄瑠璃にして「役者演閻魔大王」を作りました。その他「桃太郎・猿蟹合戦・かぐや姫・伊達譚」、変わったもので、広島の被爆の話も浄瑠璃にした「広島咲希望話カンナ」など二十曲を越えてしまいました。ライブ活

動も、毎月京都の自宅ライブ、築地の社会教育会館でのライブも三年になりました。継続は力なりと言います。子どもから大人まで沢山の方々に浄瑠璃を身近に感じて楽しんで頂けるよう会を重ねて行きたいと思えます。皆さんも機会が在れば是非聴きに来て下さいね。

お知らせ

「ぎだゆう座」で、恒例となりました野澤松也作曲の創作浄瑠璃を演奏致します。

八月一日(月)

あっぱれものおにたいじ
天晴桃乃鬼退治 桃太郎

おいてけぼり

浄瑠璃 竹本綾一 三味線 鶴澤弥々

八月二日(火)

やくしゆのえんずるえんまきま
役者演閣魔大王

おいてけぼり

浄瑠璃 竹本越孝 三味線 鶴澤弥々

ほか両日とも

ワークシヨップ 鶴澤賀寿、竹本京之助

日高川入相花王 渡し場の段

浄瑠璃 竹本佳之助、竹本越春

三味線 鶴澤駒治、鶴澤津賀榮



ひとみ座乙女文楽

ポーランド公演

さる五月十九日、二十日、ポーランドのピエルスコ・ビアワで開催された、「国際人形フェスティバル五十周年(隔年開催、第二七回)」にひとみ座乙女文楽が招聘され、竹本越孝・竹本越春・鶴澤寛也・鶴澤弥々の四人が演奏部門として参加しました。

演目は「義経千本桜」道行初音旅。両日も大変評判が良く、幕が閉まってなおもなかなか拍手が鳴り止まないほどで、うれしいことに本フェスティバルの栄誉賞を受賞しました。写真は会場のバニアルカ人形劇場、演奏後のカーテンコールの様子です。



シリーズ人物像 第二回

丸三ハシモト株式会社



毎年七月の末くらいに生糸を仕入れまして、だいたい一年かけて使っていくようにしています。昔より流通が良くなつていて、販売店の方々も必要な時にその都度注文して下さるようになってきています。

ますから、その流れを見極めて良い状態の製品を出荷できるように計画して製造、管理しています。生糸が新しいと、そのぶん粘りが出て良い音につながるのではないかと、思っています。

右の写真は目方合わせといって、一本の糸にするために撚る(よる)原糸の量を重さで測つて揃えているところです。原糸の太さは一定でないため、本数で揃えずに重さで揃えて、その後で撚りをかけていきます。

糸の撚りの入れ方は用途によって様々で、たとえば義太夫用の糸と長唄用の糸の撚り方では異なります。撚りは余韻などを含めて音色を決めますし、そのほか糊の付け方や濃度



なども一、二、

三の糸で変えて

います。そうし

た作り方の方法

は昔から伝えら

れてきました。

このような細か

い調節をしやす

いのは手作業の

利点ではないか

と思います。

糊の付け方や、

拭いてから節を取って仕上げる時なども、奏

者が直接指で触れるところですから気を遣い

ます。糊も自家製で、自分たちで餅つきして、

かきもちにして保存したものを使用していま

す。ほかの種目と比べて義太夫に関しては特

に昔ながらの製法をほとんど変えていません

そもそも初代が修行をしていた先が大阪で主

に浄瑠璃糸を作っていた所だそうですので、

我々の製造技術の根

本はそこにあるよう

です。

糸は結露に弱い

です。ですから保存す

る時にはその点を心

得ておいて頂けると

品質保持に役立つと

思います。

(代表取締役社長

橋本英宗氏談)

ほんに気がメ〜リヤス

(十七杯目)

鶴澤慎治

日本音楽（に限りませんが）の器楽部分には、何々を模した、又は表現した、例えば合の手とか、鳴物というのが数多くございます。

この手の話で真つ先に出る雪メリ（雪の合方）の原曲は、本来雪の音を模して作られた訳ではないのに、雪の場面で使われるようになって、「雪の音」として定着したのですが、それ以外にも、例えば箏曲などでよく題材になる砧とか、義太夫ですと『小鍛冶』の槌打つ音とか、具体的に音が発生するものを曲にしたものもあります。

何やら久しぶりにまともな内容になりそうなお出しですが、実は「ほんに気が滅入りやす」なことを書きたかったのです。それすなわち「電車の中のパソコンのキーボードや、ケータイの操作音」。

電車の中でまで仕事しようなどという人は、大概切羽詰まっている人ですから、ものすごい勢いで「タラタタタタタタ、パチッ！」を繰り返した後「ふう〜〜」と吐息、どうかするとキーボードを目的外のたたき方で「バン！」などというのもありまして、周りの人はいい迷惑です。

逆にマナーモードになっていないタブレットで、規則正しくのんびりと「ピッピッピッ、ピ

ッ」を繰り返す人と向かい合わせになったときも閉口しました。それがまた時々止まるんですね、で、また繰り返す…本を読んでも集中できない、寝ようとすると言を追ってしまおうで往生しました。

『タイプライター』という洋楽の曲があります。例の「タタタタ、チン、タタタタタタ」というやつです。あれなら楽しいですね。「砧」「さらし」などにも共通するのは「生活や作業などの人の営みが、リズムカルに生き生きと音楽になっている」ということで、心地よければいいんですが、不快なのは困ります。

一昔前には、公衆電話からポケベルにメッセージを送信する時とか、ガラケーでメールを打つ時にテンキーをたたく女の子とその姿、そして音も、まあ、前述のように害が及ばなければ、面白いものでした。

ところが、スマホというやつは（音を聴くことと自体が目的の場合を除き）ゲームなどでよほど激しくタップでもない限り、ほとんど操作する音は発生しません。

万事がコンピュータの発達でバーチャルになる中、音楽や演奏家、聴く感性にも、少なからぬ影響があるのでは、と思ってしまう今日この頃です。

もつとも、駅や電車で、同じような格好で同じようにスマホの画面に入っている人たちを見ると、それはそれでリズムを感じますが（笑）

『スマホの合方』とか作るなら、むしろこの風情を音にして、最後は前を見てない人同士が

(2016.7.15)

ぶつかる音で終わる、などというのはいかがでしょう？



「福よせ雛プロジェクト」展示より。
春先、名古屋、文化のみち二葉館にて。

■ 訃報 ■

波多一索氏 逝去

前義太夫協会代表理事（会長）波多一索氏が、六月三日、悪性リンパ腫のため逝去されました。享年八二。

義太夫協会において会長を四期半のあいだ歴任されたばかりでなく、日本ビクター時代には「竹本越路大夫全集」など日本音楽史に残るレコード作品を数多く制作するなどの功績も多く、財団法人ビクター伝統文化振興財団（現・公益財団法人日本伝統文化振興財団）では初代理事長を務められました。

また長年にわたる文化財保護への貢献に対し、平成二六年度文化庁長官表彰を受賞されました。



(写真・福田知弘)

(平成二六年十二月公演にて)



竹本弥乃太夫 長年に渡り協会のために尽くしていただき、また、個人的にも何かとお世話になりました。心から感謝を申し上げるとともに、ご冥福をお祈りいたします。

竹本駒之助 体調に自信がないとおっしゃりながらも、皆のことを思つて大役をお引き受け下さっていました。回復され、おみえになるのを心待ちにしておりましたので、誠に残念なことです。

竹本綾之助 定例公演等の折りには必ず楽屋におみえ下さいました。そんな時の大きなお体でおやさしい眼差しはもう拝見できなくなりました。残念です。ジェントルマンな先生でした。

ここに心より哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り致します。

■ 協会・正会員の主な動き ■

平成二八年一月〜六月

【公演】

- 「女流義太夫演奏会」主催・義太夫協会
一月二十日（水）お江戸日本橋亭
- 二月二十四日（水）国立演芸場（義太夫節
保存会主催・第三五回伝承者研修発表会）
- 三月二十日（日）お江戸日本橋亭
- 四月二十九日（金・祝）紀尾井小ホール
- 五月二十日（金）お江戸日本橋亭
- 六月二十四日（金）紀尾井小ホール

（義太夫節保存会主催・若手勉強会）
この演奏会にて竹本孝矢、竹本寿々女初舞台

「ぎだゆう座初春公演」 一月九日 お江戸
両国亭

「ぎだゆう座」 二月一、二日、四月一・二
日、六月一・二日 お江戸上野広小路亭

「じよぎ」 三月一、二日、五月一・二日 お
江戸上野広小路亭

「第二回弓弦葉の会」 一月十日 紀尾井小
ホール

「女流義太夫スペシャルライブ vol.5」 一
月十五・十六日 ザ・グリ

「第十三回素浄瑠璃の会」 二月三日 お江
戸日本橋亭

「第四六回邦楽演奏会」 三月五日 国立劇
場小劇場

「第五回花のように香れ 女流義太夫」 三月

(2016.7.15)

二二日 蕨市立文化ホールくるる
 「第十四回はなやぐらの会」 四月十日 紀尾井小ホール
 「津賀寿の会」 五月二十七日 三越劇場

「橋本源氏再び 源氏物語 玉鬘 旅路の段より長谷寺の段」 五月三十一日 お江戸日本橋亭
 「ひとみ座乙女文楽ポード公演」 五月十九・二十日 ポーランド・ビエレスコーピワヤ バニアルカ人形劇場

【普及】

◆義太夫・三味線一日体験教室 会場はいずれも豊川稲荷文化会館
 二月十三日 講師 竹本佳之助・鶴澤弥吉
 四月二三日 講師 竹本越若・鶴澤三寿々

◆第六八期義太夫教室 実践コース(後期)
 一月三日～三月十七日 豊川稲荷文化会館

◆第六八期義太夫教室卒業発表会・OB演奏会 三月十二日 深川江戸資料館小劇場

◆第六九期義太夫教室 入門コース 五月二六日～七月二二日 豊川稲荷文化会館

◆「芸術文化による子供のための育成事業」学校巡回公演「三味線物語」 主催・文化庁

一月二五日～二七日 兵庫・小中学校各校、香川・中学校一校
 ◆講師派遣 川崎市小学校国際教育研究会 研修会 五月十一日 川崎市立久地小学校

【人材育成】

新人養成特別研修制度

五月二六日 第一回面接 一名採用

【運営】

平成二八年度第一回理事会 五月二三日

平成二八年度通常総会・役員選挙 五月二九日

平成二八年度第二回理事会 五月二九日

■今後の協会・正会員の予定■

平成二八年七月以降

【公演】

「女流義太夫演奏会」 主催・義太夫協会

七月二十日(水) お江戸日本橋亭

八月二十日(土) お江戸日本橋亭 *昼公演

九月二十日(火) お江戸日本橋亭

十月二六日(水) 国立演芸場

十一月二十日(日) お江戸日本橋亭

*昼公演 (義太夫節保存会主催第三六回 伝承者研修発表会)

十二月十七日(土) 紀尾井小ホール *昼公演

「ぎだゆう座」 八月・十月・十二月の一、二日 お江戸上野広小路亭 十九時

「じよぎ」 七月・九月・十一月の一、二日 お江戸上野広小路亭 十八時三十分

「第六回花のように香れ 女流義太夫」 七月九日(土) 十八時三十分

蕨市立文化ホールくるる

「女流義太夫スペシャルライブ vol.6」 七月二八・二九日 十九時 ザ・グリー
 「土佐恵の会」 十一月六日(日) 十四時三十分 内幸町ホール

【普及】

◆義太夫・三味線一日体験教室 八月二十七日(土) 豊川稲荷文化会館

講師 竹本土佐子・鶴澤三寿々

◆第六九期義太夫教室 入門コース 五月二六日～七月二二日 毎週 木・土曜日

講師 講義・竹本弥乃太夫他 語り・竹本土佐子、竹本越若 三味線・鶴澤三寿々

*現在開講中

◆第六九期義太夫教室 実践コース(前期) 九月八日～十二月二二日 豊川稲荷文化会館

【人材育成】

新人養成特別研修 平成二八年七月より研修開始(一名) 研修生は随時募集中

【運営】

平成二八年度第三回理事会 九月中旬予定

平成二八年度第四回理事会 十二月中旬予定

掲載広告大募集! 義太夫協会では、会報に掲載する広告を掲載して下さる方を募集しております。一回限りの掲載も大歓迎です。お値段等、お気軽に義太夫協会までお問い合わせ下さい。

■寄付・寄贈■

本年一月～五月までに左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。ありがとうございました。

竹内 久様

三十万円

田村進一様

レコードプレーヤー、

首都圏図書館義太夫LP、CD、DVD、

カセットテープ所蔵リスト一式

河野国声氏ご子息河野哲丸様

デスクトップパソコン、

ノートパソコン一式

向井亨様

三味線一式、見台一台、

床本・稽古本、肩衣、袴

祖先祭のご案内

今年も左記の要領で祖先祭を開催致します。会報前号でお伝え致しました「犬猫供養塔」、この機会に是非ご覧下さい。

茶話会の時間もございます。法要・募参で先人の功績に思いを馳せた後は、会員同士の交流をお楽しみください。

日時 平成二八年十月八日(土) 十三時より
場所 両国・回向院

お話し 水野悠子

「竹本素女没後五十年

―女流義太夫と祖先祭―

参加費 千円

〈編集後記〉

・波多前会長ご逝去という悲しいこともありましたが、原新会長のもと、それぞれが一層芸に精進していくことこそが一番のご供養かと思えます。(K)

・高望みはしません。ごく普通に「スイートに泊まるお金があつたら他へ回そう」と考えられる人に投票したいだけなんです。(K2)
・広告掲載、版下自作等々、少しでも血税ならぬ会費を有効に、そして豊富な話題を、なご会報発行体制に改革を起こした?現メンバー。皆々様に感謝しています。(S)

会報編集委員/鶴澤寛也(編集長)

・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々

編集協力/(一社)義太夫協会 事務局

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理 その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。



〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14

TEL/FAX 03-3466-2156

P.H.S 070-5457-5687

kimura-wanoshirabe@nifty.com

義太夫協会オリジナルCD

最新作 9月25日「本牧亭を聴く会」にて発売決定!

本牧亭公演記録音源としては最古の昭和34年1月1日、「二代目さん」唯一の音源

「近頃河原の達引 掘川猿廻しの段」 定価 1,500円

浄瑠璃 二代目竹本綾之助 三味線 鶴澤三生 ツレ 不詳

<義太夫協会音源シリーズ好評発売中 詳しくは義太夫協会へお問い合わせください>

CD-R盤全8タイトル 壺坂観音霊験記・新版歌祭文・絵本太功記・御所桜堀河夜討他 各1,500円

プレス盤 「心中紙屋治兵衛 河庄の段」 竹本土佐廣 鶴澤友路 2,160円

永谷 暑中お見舞い申し上げます

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭 お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭 新宿永谷ホール



2.5mm LED Display Panel

ピクセルピッチ:2.5mm
表示画素数:192x192(36864/1タイル)
外形寸法:W480xH480xD80mm
重量:約10.0kg
消費電力:150W(最大)、40W(標準)
電源電圧:100~240V
推奨最短視認距離:約1m

ProFocus

地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

代表取締役	渡辺 康成
常務取締役	高山 早苗
専務取締役	渡辺 貞穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684